

筑紫女学園大学と包括連携協定を締結

8月7日(火)、市は筑紫女学園大学と包括連携協定を締結し、調印式を行いました。

この協定は、地域コミュニティの発展や教育・福祉の充実などに相互に取り組むために締結したもので、これまでも連携して事業を行ってきた市と筑紫女学園大学が、この協定を契機に、

さらなる連携の強化を図ります。

協定書に署名をした藤田市長と筑紫女学園大学の中川学長は固い握手を交わし、中川学長は「大学で学んだ、まちづくり、高齢者福祉などに関する知識を現場で活用し、お互いに発展することを願います」と話しました。

藤田市長は「高齢化などの課題解決



協定書を持つ藤田市長(左)と中川学長(右)

協定で掲げた連携協力事項

- ①地域の文化および産業の振興に関すること
 - ②教育および人材の育成に関すること
 - ③地域コミュニティの発展およびまちづくりに関すること
 - ④地域住民の健康および福祉に関すること
- 具体的には、市主催のイベント、小学校との共同研究、地域コミュニティ事業、子育て支援事業などでの連携を想定しています。

や、活力あるまちづくりに向けて、大学の知的資源、人的資源で市を支援していただければ」と話しました。

今後、情報の共有や協議などを継続しながら、連携を進めていきます。

「何かできることを」筑紫野中で募金

平成30年7月豪雨で被災した人たちのために役立てて欲しい、と筑紫野中学校の生徒会を代表して生徒会

長の奥野 萌衣さんと書記の太田尾菜乃葉さんが8月2日(木)、藤田市長に義援金を持参しました。

筑紫野中学校では、生徒と保護者に協力を呼びかけ、7月13日から5日間、毎朝の登校時間帯に募金箱を持って昇降口に立ち、集めました。これは、生徒会の皆さんが話し合って自発的に行ったものです。

生徒会長の奥野さんは「今回の災害は、私たちの校区内でも被害がありました。身近なところで起こったことなので、何かできることはないか、と考えて決めました」と話しました。

ずっしりと重い募金を受け取った藤田市長は、「思っても行動に移すことは難しいこと。市民を代表してお礼を言います」と伝えました。預かった募金は被災した方々のために役立てます。



皆さんの思いが詰まった、ずっしりと重い募金を手渡しました